

署名運動に疑問あり

水俣病新認定患者 公開質問状出す

水俣市で水俣病問題をめぐって二つの署名運動が行なわれているが、このうち自民党など各種団体の長十六人が個人の資格で発起人となり、全市にわたって署名運動しているのに対し、さきにしん水俣病に認定された十八人の患者は二十八日、署名運動に疑問があるとして公開質問状を出した。

この署名運動（発起人代表・徳富昌文自民党市支部長）の趣旨は「水俣病の解決なくしてあすの水俣の繁栄はない」としているが、内容面では①新認定の要件が明確でないため企業と患者との間で混乱を生じ、社会不安をかもしきっているので、認定内容をはっきりせよ②国の行政レベルで患者のラ

ンク付けを③水俣病の病名変更を④などのほか、公害救済法の給付額の大増額、授産施設の充実など患者の行政的な救済を訴えている。

た。これに対し、新認定患者の同市湯堂、石田泉さん(三〇)ら十八人は、署名運動の全体的な受け取り

方として「会社の代弁ではないか」としており、公開質問状では「水俣病を解決するのには、当事者の患者の意見も聞かなければならないが、あなた方は患者がどんな症状で、どんな苦しい生活を送り、なにを考え、なにを望んでいるか知っていますか」と問いかけている。

また、署名運動者がいう認定内

容の公開は、会社の言い分と全く同じで、混乱を生じているのは、会社が素直に患者の要望を受け入れようとしなからだと反発。病名変更についても、病名が変わったからと言って、どんな効果があるのか。水俣病のイメージが暗いのは、いままで周囲からいじめ抜かれて、やっとの思いで名のり出たものの、その間症状も悪化し、

お互いの関係もより暗く、悲惨になったからだと訴えている。

この公開質問状は二十八日朝、全市にわたって配布されたが、これで同市の署名運動は完全にそれぞれの立場の人が意思を表明する分極したものとなり、かえって患者とのミゾを深めた一との見方が強まってきている。